出会いはタカラモノ

子どもから教えられたことばかり

第6回　心に残る経験から育つ、信頼できる力

佐藤比呂二

さとう　ひろじ／東京都生まれ。特別支援学校教員。編著書に『ホントのねがいをつかむ―自閉症児を育む実践』（全障研出版部）など。

思いを汲めず傷つける

毎朝、満太郎君（中2、知的障害）の家に行くも、玄関を開けるなり取りつく島もなく「ヤダ！」と言われ、そのまま戸を閉める日もありました。やりとりの余地があると感じれば、あの手この手で誘います。その気になれば自転車で出発。行き先は…学校ではなく浅草です。しかし、浅草の後は決まって学校に行くのです。なんとも健気な満太郎君です。

そんな彼の思いを汲めず傷つけてしまうできごとがありました。5月の連休明けのことです。朝から降り続く雨を理由に、私は（自転車以外の方法ででかけられないか）と考えながら玄関の戸を開けました。

「雨だから自転車乗れないね。今日は路線バスで行こうか」と誘ってみたのです。満太郎君は険しい表情で葛藤し始めました。そして、一旦は家を出たものの引き返すと、玄関先の植木鉢を力いっぱい叩きつけて割ってしまいました。さらに、止めようとした私の顔に右ストレートが炸裂！

「無理には連れて行かないよ。行きたくなかったらそう言っていいんだよ」とゆっくりと言って聞かせましたが、自分がやってしまったことを悔み、消え入りそうな姿でうなだれています。考えてみれば、連休明けで久しぶりの平日。自転車ででかけるのを心待ちにしていたかもしれません。

（うまくいけばバスに乗せられるかも）という自分の思いだけを先走りさせ彼の思いを汲もうとしなかった私の失敗です。叩かせてしまった責任を痛感し、「無理言ってごめんね」と謝りました。

怪我の功名から生まれた「合体お絵かき」

この後、「今日は家でゆっくり過ごそう」と、満太郎君のリクエストに応えて絵を描くことにしたのですが、これが大変な盛り上がりをみせました。

2つのキャラクターを「合体」させたのです。たとえば、「ドラグーンと仮面ライダーアギトが合体」と言えば、二つの特徴を混ぜて描き、名前も「仮面ライダードラギトーン」などと合体させます。満太郎君はお腹を抱えて笑いころげます。唯一無二のキャラクターの誕生はこの上なく魅力的なようです。この日、私は4時間にわたって描き続けました。

最悪の朝で始まった一日でしたが、「合体お絵かき」という二人の共有する世界が生まれました。怪我の功名です。翌日、彼はA4サイズの紙をわざわざ自分好みのB5サイズに切り揃えて待ち構えていました。ママが「夜中の3時まで100枚以上切ってましたよ」と半ばあきれ顔で教えてくれました。

「納得」を生み出す

5月中旬のある朝、まだパジャマ姿の満太郎君は、学校はイヤだけど「合体お絵かき」はしてほしくて葛藤の真っ最中でした。「ここ」と床を指さします。（家で描いてほしいのか）と思い「ここで2枚描いたら着替えようか」と誘います。満太郎君はじっと考え「9枚」。（おっ、のってきた。あとは枚数を決めるだけ）と思い、「じゃ、3枚」と私。「5枚」と言うので「2枚」。「7枚」に「4枚」。「30枚」には「1枚」…。

私は5枚以上は絶対に言いません。競りのようなやりとりが続き、とうとう「4枚」で交渉成立です。

「じゃ、4枚描いたら着替えようね」「うん」と一旦は納得したものの、3枚目の後「もう1枚ね」とあらかじめ声をかけると「5枚…」とつぶやくのが聞こえました。

私は（ははぁ、約束の4枚じゃ終わらないな。では「もう1枚」を何回で折り合いをつけられるかな）とこの時点で心の準備をしました。4枚目が終わると案の定「もう1枚」と要求します。そばで見ていたママが「約束したんだから着替えたら」と言いますが、私が「じゃあ、もう1枚ね」と一旦受け入れるとその瞬間パッと着替えて出かける準備をしました。

納得するまでが大事。納得さえすれば黙っていても自分からやるのです。

「お仕事ノート」誕生

ママからこんな相談を受けました。満太郎君は、「ママ、買い物」と無理矢理ママを家から追い出すと、その隙に近くのおもちゃ屋でほしい物をレジに持っていってしまうそうです。気づいて駆けつけたときには、もう買わざるを得ないといいます。そこで、なにか手伝いをしたら10円あげること、買い物はそのお金で自分でさせること、足りないときはこっそり足してほしいことをママに提案しました。

学校でも一日の終わりにがんばったことを書き出し、一つ一つに「合体お絵かき」をして10円（ママから預かったお金）を渡すことにすると、これがものの見事にはまりました。このノートを「お仕事ノート」と名付けました。

役立つ自分、価値ある自分を味わう

浅草巡りの後、登校しても集団には入らず給食も食べない